

買物は投票だ！  
資源循環の社会経済へ  
地産地消を



News !

2022.10.5

[発行] NPO 法人グリーンコンシューマー大阪ネットワーク

●〒565-0842 吹田市千里山東 1-14-26 ほぼエコcafé&Gallery NAZ(ナーズ)内

●年会費 1 口 2000 円(個人 1 口以上、学生半口以上、団体 3 口以上、賛助会員(会社)5 口以上)

●郵便振替 00920-8-154437 ●TEL06-7222-8005 ●E-mail greencon@g2.xrea.com ●<http://www.greencon@g2.xrea.com>

## プラなし生活（マイボトル、マイ容器持参）で温暖化にストップ！

### “大量生産と大量消費の限界です”

プラスチックの原料は石油で、原油国からの輸入に頼っています。しかし、国内での生産量は世界第3位、一人当たりプラごみ消費量世界第2位という大量消費をしています。(人口は世界11位)

プラスチックは、食品、医療など安全で商品を保管する優れたもので、製品は多岐にわたります。安価で加工しやすく大量に生産できるとして、石油産出量の約1割に当たる4億トン/年のプラスチックが生産され、その半分が容器包装材になっています。

有料化されたがレジ袋の枚数は、推定400億枚、一人当たり一日約一枚のペースで消費されています。また、ペットボトルの国内年間出荷は227億本に達します。

想像してください。人口1.2億人が浪費と言われるぐらい使っているか！

消費者のエコな行動だけでは減らせません。脱石油資源と資源循環への道に歩みだす時ではなんでしょうか。

### プラスチックごみの6割が熱回収・焼却へ

家庭でプラ製品を分別した行方は、多くがごみ焼却工場の燃料補助剤として焼却されます。これは実質的な温室効果ガスの発生となり、温暖化が進む原因になります。日本は、温暖化防止にむけて国際的な責任を持たなければならない立場にあります。(マテリアルリサイクル 21%・ケミカルリサイクル 3%)

### 大阪湾に漂流するごみの8割がプラごみ、ペットボトルの9割は日本製

大阪府×阪大がAIで解析するモデル河川として大川(岬町)、恩地川(寝屋川)、平野川(大阪平野一帯)の3本の河川でプラスチックごみの推計をしています。昨年度は総重量約63t、約12万個。

体積の推計は小学校の25mプール(幅12m×長さ25m×深さ1.2m)3杯分の量です。環境省は、海洋プラスチック汚染は地球規模で拡散しており、北極や南極でもマイクロプラスチックが観測され、日本周辺海域では北太平洋の16倍のマイクロプラスチックが確認され、少なくとも2,500万t、日本から海に流出する量は2万~6万tと推計しています。

### プラスチック添加物は人間など生物に有害

マイクロプラスチックが魚だけでなく人間の胎盤でも確認され、プラスチックごみから染み出した高濃度の内分泌かく乱物質(環境ホルモン)が含まれ海や河川の魚、海藻が取り込み、人間へと食物連鎖が止まらなくなっています。また、プラスチックの特性として、油とくっつきやすく、自然分解されにくく、残留性有機汚染物質を吸着してしまいます。河川や海洋でのプラごみ問題が深刻なのです。

どうやって減らすのか？

まずは、使い捨てない循環システム、リユース容器、ガラス容器等への切り替え、プラから植物原料、輸送負荷をかけない地産地消など、さらに河川や海に流れないための河川清掃もとても大切なのです。